



生活保護はセイフティネット  
(安全網)として機能しているか

村田 秀夫 (日本共産党)

**問** コロナ禍で市民生活は困難に直面しているが「最後のとりで」とも言われる市の生活保護の状況と市民への周知は。

**答** コロナ禍以前の令和元年度申請件数は83件で、うち保護決定は76件、令和2年度の申請件数は85件で、うち保護決定は82件である。また、周知は市ホームページに生活保護のページを設けるなどで行っている。

**問** 厚労省のホームページには「生活保護の申請は国民の権利です。ためらわずに御相談ください。」とあるが、市も同様の表記をすべきでは。

**答** 厚労省や他自治体の例を見ながら、研究していきたい。

**問** 生活保護申請が増えているのは申請抑制の「水際作戦」を取っているからではないか。縁の薄い親戚にまで生活保護

に代わる扶養の意思を確認する「扶養照会」が生活保護の申請をためらわせないか。

**答** 意図的に水際作戦を行っていることはなく、生活保護法令等に従って適正に実施している。相談者に丁寧に説明するよう職員に徹底させていく。

**●** 農村部でも安心して住み続けられる市政を、公共交通の拡充について

**問** 市が進める公共施設サービスを市街地に集中させるコンパクトシティでは、益々暮らしが心配だという声がある。市内循環バスの近隣市への乗り入れやデマンドタクシーの利用者負担を医療機関への受診時だけでも抑制できないか。

**答** 令和4年度に「市田市公共交通計画」の策定を予定しており、計画に基づいて見直しを行っていく。



事業の検証の意識と  
計画に具体性はあるか

斉藤 博美 (日本共産党)

**問** 除草費用は生産性がなく多額の費用を要すため効率的な作業が必要だが各課がそれぞれ除草の予算を組み個別に業者に委託するため、通常では全体的な費用の把握は難しいが、市全体の除草費用の総額は。

**答** 各所管課で必要最低限の予算を確保し、コスト削減に取り組んでいる。総額は、約9030万円である。

**問** 意識の問題として、仕方がない費用で終わらせるか、そうでないかで長期的に見ると違ってくる。まず同じ課や部でまとめて発注しているか。

**答** 課や部をまたいでの一括発注はしていないが、効率的な除草のあり方について検討は進めていき

**問** 兵庫県の土木事務所では根の部分に熱湯をかけ枯死させる方法や他市

では動物のヤギによる除草など安全かつコストを抑える手法をとっている。参考にしているかどうか。

**答** 事例を今後確認させていきたい。

**●** 魅力的な都市計画

**問** 子育て世帯に魅力的なまちづくりとは何か、今後の具体的な計画は。

**答** 人口減による集約・連携型都市構造の実現や土地利用構想図の設定により、子育て世帯に魅力的なまちづくりを進める。



産業交流拠点整備事業の  
現状と今後について

小林 友明 (新政策研究会)

**問** 市長就任後まもなく3年経過するが、行政の継続性の観点から、道の駅を含む産業交流拠点整備事業の現状について、市長に伺う。

**答** 本事業は多くの課題を抱えており、実現には高いハードルがあると認識するも、本事業の実施に向け検討を進めていく。

**問** 本事業が計画どおり進まない要因は何か。また当初の計画自体に齟齬はないのか、市長に伺う。

**答** 農用地区域からの除外が課題で事業の進展は図られていない。事業の基本計画は土地利用の可能性から入るべきであると考ええる。

**問** 農用地区域からの除外は果たして可能かどうか。

個別案件として除外方法などの協議を進めていく。

**問** 今後、本事業は基本計画どおりに進めるのか、また事業の期限はどうか。

**答** あらゆる選択肢を排除しないで、土地利用できるところなら、今後も模索していきたい。なお、令和8年度開業目標の達成は困難な状況である。

**●** 空き家の利活用

**問** 市長は空き家対策に特に力を注ぎたいと示しているが、具体的に何をどう取り組むのか。